

## 教会と世界における信徒マリアニスト共同体 (MLC)

「現代の人々の喜びと希望、苦悩と不安、とくに貧しい人々とすべての苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、苦悩と不安でもある。真に人間的なことがらで、キリストの弟子たちの心に響かないものは何もない。」

第二バチカン公会議、現代世界憲章

「キリスト教の奥深いところで信仰の神聖なる光が揺らめき消されています。徳は日々小さくなって姿を消し、邪悪は凄まじい激しさで増大しています。わたしたちは今広範囲に及ぶ背信と至るところに存在する棄教を予言した時代に生きていると言えるかもしれません。しかしながら、不幸にも今の時代を真に表しているこの記述によって、わたしたちは希望を失うことはありません。マリア様の力は衰えていません。わたしたちは、『マリアは、他のすべての異端と同じように、この異端を打ち負かされるだろう。なぜなら、マリアは今もいつも、卓越した女性、サタンの頭を砕く約束された女性であるから』と堅く信じています。」

ギョーム・ヨゼフ・シャミナード

1839年8月24日付 黙想会の指導者に宛てた書簡

### 1. 導入

1.1. ここ数カ月に亘って世界のMLCが実行した調査によって、わたしたちには世界中の教会と社会の中でMLCが活動したすべての善いことについて、神に感謝する機会が与えられています。同時に、わたしたちに確固とした、勇気ある、希望に満ちた答えを問い求めている以下の弱点は、謙虚にこれを認める必要があります。

1.1.1. わたしたちはこの世界のニーズに気づいていますが、そのニーズに対して実践的な行動を起こす必要があります。

1.1.2. わたしたちは自分たちの共同体を大切にしていますが、わたしたちが協力したり、より大きな共同体の一部であると感じることは、依然として難しいです。

1.1.3. 新しい召命のために働いていますが、その実りは少ないです。

1.1.4. 社会的、政治的分野には、ほとんど参加していません。

1.1.5. 時間と祈りは分かち合っていますが、財政的な分かち合いは依然として困難です。

1.1.6. 教会の一部だと感じていますが、信徒参加の分野では十分な存在を示していません。

## 2. 共同体とマリアニスト家族

- 2.1. わたしたちはマリアニスト家族を、共同体の中で自分たちの信仰を生きる自然な形として理解しています。それはマリアニスト・カリスマに相応しい直観です。わたしたちは特に、マリアニスト家族の構成の持つ対等な性格を評価しますが、その対等な生格において、MLC、汚れなきマリア修道会、マリア会、アリアンス・マリアルは、ユニークなマリアニスト召命に基づいて、混同なき一致のうちに、相互に依存して活動し成長しています。わたしたちは、現在と近い将来において、これらの他の枝と協力し提携する新しい機会を見出すことを提案します。（四つの枝が一緒に住む共同体、協力して行うミッションなど）
- 2.2. わたしたちの共同体と会員の基礎は、わたしたちの真の解放者であるイエス・キリストの中に見出されるので、マリアをモデルとして、神との関係を深めるよう努めます。わたしたちは、創立者の言葉と行動に鼓舞されて、共同体においてそうすることを選択します。
- 2.3. 個人主義の蔓延に直面して、わたしたちは共同体として信仰を生きることを選択します。わたしたちは、霊性を探し求めているすべての人（この時代の特徴）に向けられる愛のシンボル—喜びの源である解放する神についての真の体験—をこの世界に提供することができます。
- 2.4. この神体験は、わたしたちがすべての人とオープンな話し合いの精神を持つよう励まし、わたしたちがより公平で寛大な社会の建設に協力するようにしてくれます。わたしたちの共同体は、人々に対して友好的な姿勢とアプローチで特徴づけられていて、各々が持つ時間とスタイルに敬意を払っています。イエスの霊は、すべての人をあるがままの姿で歓迎し受け入れるようにわたしたちを動かします。
- 2.5. 共同体は、何よりも、頂いたわたしたちの信仰を祝い、それを生き抜き、また個人的な祈りを深める場です。わたしたちは、信仰の祝いをより創造的で刷新されたものにすることによって、参加しやすく生き生きとしたものにしたいと思います。時のしるしに答えるためにこれが必要だと考えるからです。
- 2.6. 共同体の生活全般を照らすマリアニストの伝統の中に、これらの霊示とモデルを探すことを提案します。また、ある国でよい結果をもたらしている解決策を、特に養成と新会員募集に関して困難な状況にある人たちに伝達する手段を講じなくてはなりません。
- 2.7. この世界でよりよいキリスト者であることを目指すために、MLCの養成を強化する必要があります。そのために、わたしたちは、MLCの養成をよりよいものとするための信徒と修道者のリーダー養成の準備に、マリアニスト家族の全ての枝が参加するようにします。
- 2.8. すべての共同体は、様々なイニシアティブを発揮して新しい会員にアプローチし、彼らを歓迎しようと努めます。しかし、あまりに多くの国々でいい結果を生み出していません。これについては、従来の方法やスタイルに関して個人的また全体的な反省が必要です。
- 2.9. わたしたちは対等な共同体ですから、要請される財政的な支援、援助、仕事の履行に対する明確なコミットメントがなされるのを期待します。目指すゴールに到達し、適切で持続可能なモデルを発見するために必要な、欠かせない人材と経済的資源についてよく考える必要があります。
- 2.10. MLCにとって主要な挑戦のひとつは、自分たちがおかれた状況の中で、対話を通して自由に意

見交換できる環境を整えることです。その結果として、より大きな社会的、変革的な影響と、より積極的な宣教的コミットメントがもたらされます。

- 2.11. わたしたちは、イエスの弟子として、自分たちの状況のもつ新しく複雑な挑戦に応える適切な方法を探したいと願っています。わたしたちは新しい変化の段階に入っています。その局面で、主は、「自分の故郷を去り」(創世記 12 : 1)、他の共同体、地域、国そして世界に心を開くようにと、わたしたちを明確に招いておられます。わたしたちの共同体は他の共同体とお互いに遠く離れているので、わたしたちは関係を維持し、また、マリアニスト・カリスマを成長させ、祝うよう努めます。
- 2.12. わたしたちは、共同体において、霊的で養成に役立つ糧を探し続けることを願いますが、しかし同時に、社会正義とわたしたちの共同体の持つ宣教的な側面をさらに強めるためにも働きます。わたしたちの直観は、わたしたちマリアニストの旅が相互支援の新しい宣教計画を造ることから始まるということですが、そのことはまた、物品や財政的資源を分かち合うというより好ましい雰囲気をも作り出します。たとえわたしたちがほんのわずかしかなかったとしても、MLCの会員と共同体が簡素に生活し、物質主義を避けるよう勧めます。

### 3. 教会

- 3.1. 洗礼により、わたしたちは教会の一員となっており、マリアニスト家族を通して、教会に参加しています。わたしたちは、マリアのように、わたしたちの現実が抱えている新しく複雑な挑戦に対する正しい応え方を見出すことができるよう、祈りのうちに聖霊の働きに対して開かれていようと努めます。
- 3.2. わたしたちは人々が抱えている重要な問いに答えるために、イエス・キリストのメッセージをあらゆる人々に提供します。特に、探し求めている人たちにわたしたちの霊性を提供します。
- 3.3. 第二バチカン公会議は、わたしたちにとって、教会における新しい積極的な信徒の役割、多くの新しいビジョン、重要な挑戦に対して扉を開いた重要な出来事です。わたしたちはその達成に向けてより多くのことが実行されなければならないと考え、この公会議の文書に基づいて自分たちの養成を深めるよう提案します。
- 3.4. わたしたちは、MLCが教会生活における信徒のより直接的な参加と、より開かれた意味のある参加を可能にする方法を見出す必要がある、と思います。
- 3.5. わたしたちは、教会の典礼が一致のしるし、および手段であることを信じます。典礼をより近づきやすいもの、祝賀的なもの、生き生きとしたもの、多様な文化を反映するものにするによって、より積極的、意識的な参加を促進しなければなりません。
- 3.6. マリアニスト・カリスマについての知識がより深まるにつれて、自分たちが何者なのか、何をするのかということ、より広がりのある教会において分かち合いたいと思います。自分たちの生活の例証を通して、教会に対してこのことを目に見えるものとすることができます。
- 3.7. わたしたちはより謙遜で、理解があり、対話を重んじる教会、富んでおらず、人間の現実により近い教会を促進します。
- 3.8. 信徒の積極的な関与（これは第二バチカン公会議、他の教会文書、マリアニスト家族の創立者た

ちの霊示から受けた招きなのですが) はわたしたちにとってとても重要です。信徒マリアニストとして、わたしたちは教会の中でもっと責任を担うよう呼ばれています。あらゆるレベルで、つまり地方、地区、国、大陸、国際レベルで、わたしたちは教会の信徒組織に場を占めなければならないし、信徒と修道者の対等な弟子としての経験を分かち合わなければなりません。

- 3.9. わたしたちは教会の意志決定における女性のより積極的な役割と参加を促進します。
- 3.10. わたしたちはわたしたちのグループにいる若者たちを励まし、また、他の若者たちとより効果的に接触する新しい方策を見つける必要があります。それは、彼らが教会において自分たちの才能を最大限に発揮するためです。

## 4. 社会

- 4.1. わたしたちの共同体は、わたしたちが生活している社会の一員であり、そこでわたしたちはマリアニスト・カリスマを具現します。
- 4.2. 信徒に相応しい特有のミッションは、この世界で実行されなければなりません。それは、わたしたちの証しと行動によって、この世界の変革とより公正な社会機構の構築に貢献するためです。
- 4.3. 家庭生活は、キリスト者としてのわたしたちの信仰、価値観、使命を育む基本的な場でなければなりません。家庭はマリアニスト共同体の本質的な部分を形成します。それで、わたしたちは一人ひとりの人間の尊厳を敬うよう努めます。
- 4.4. 意識的な生活様式によって、わたしたちは福音の諸価値に基づいた生活を体現するようになります。個人的また共同体的な識別によって、わたしたちは家庭で、職場で、また教会と社会でのより積極的な参加において、これらの価値を男女の関係に応用させるようになります。
- 4.5. 世界の現状に直面して、MLCは正直さ、誠実さ、協力、職業意識、努力、仕事上の責任を支援します。会員にとって、福音の価値に対して真摯であることは不可欠です。わたしたちの生活のあらゆる分野で、マリアニストとしてのわたしたちの行動は他の人々の心の琴線に触れ、社会に影響を及ぼすでしょう。
- 4.6. わたしたちの社会においては、不平等を生み出す特権と分かち合いを躊躇する気持ちもまた、共同体に影響を与えます。多くの場合、わたしたちは自分自身を支えるのにどうしても必要なものを分かち合おうとはしません。しかしながら、わたしたちはこのような態度を変える必要があると感じます。わたしたちは、物と資源を分かち合う新しいやり方に向かって進む時が来た、と考えます。
- 4.7. わたしたちは、人権の尊重に関してバランスの取れた政策を定め、履行するために、陳情活動と支援運動を通して正義を促進するよう招かれています。
- 4.8. わたしたちは不寛容からもたらされる暴力に反対します。MLCは、他の宗教との積極的な関係を発展させることによって、平和を促進し、調和の中に生きようと努めます。
- 4.9. わたしたちはすでに、個人的にも共同体としても、宣教精神を育成する旅を始めました。そして、社会問題へと自分を振り向け、あまり恵まれていない人々に対して共同体として明確で実践的な選択をし、わたしたちが自分の時間、物、才能をより一層他の人たちと分かち合うようにしてくれる手段を講じています。
- 4.10. わたしたちは、自分の消費習慣を変え、物と財源の使い方について反省し、正義を支持する社会

的な運動に積極的に参加し、開発途上国における協同計画と同様に、自分の国の開発計画を支援するよう提案します。

- 4.11. グローバルな世界を変革するという希望を諦めることなく、わたしたちの周りの身近な世界を変えるために、「草の根」の団体や組織 {隣組、social platforms (ソーシャルサービスの開発や提供を可能にするサービス)、政党活動、社会的・教会的な運動など} に関わる必要があります。
- 4.12. 最後に、これらすべての変化へのイニシアティブが実現して世界に広がり、わたしたちの共同体を越えて分かち合われることを信じます。マリアのように、「彼がわたしたちに言いつけたことは何でもするよう」人々を招きましょう。そうすれば、母マリアと共に歩む道に結ばれて、わたしたちは御子に到達します。

罪の汚れのないおとめマリアによって  
父と子と聖霊が至るところでたたえられますように。

アーメン

第5回 信徒マリアニスト共同体国際会議文書  
—2009年8月、ケニアのナイロビにおける全体集会で承認—